

# 平成19年度 和歌山県文化功労賞

こ ばやし けい ぞう  
小 林 慶 三

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：昭和6年

## ◎業績及び経歴

昭和6年和歌山市に生まれ、幼少より父の観世流能楽師小林憲太郎氏から指導を受け、子方として鷺ノ森別院能舞台等に出演する。

昭和31年大阪市立大学卒業後、京都の片山九郎右衛門氏に師事し、昭和37年に独立して、和歌山において歴史ある小林観諷会を継承する。

能楽鑑賞機会の創出とその普及を図るため、昭和43年に和歌山能楽鑑賞会を企画し、喜多流との合同開催で話題をよぶとともに、昭和55年に「市民能」、昭和59年には「けんぶん能」を企画・公演、また、流派にとらわれることなく謡の愛好家で組織する和歌山県民謡曲流友会(現：和歌山県謡曲流友会)の設立にも尽力する。

昭和53年には、日本能楽会会員となり文化庁から重要無形文化財能楽保持者の認定を受ける。

昭和60年の文化庁主催「青少年芸術劇場」では、熊本県、長崎県、佐賀県、山口県で公演を行う。

平成10年2月の「けんぶん能」では、能の「老女物」で最も奥深い秘曲とされる「卒都婆小町」を和歌山では戦後始めて上演するとともに、平成17年には世界遺産登録1周年記念として、「速玉大社薪能」の特別講演を行う。

現在まで県内外で多くの公演を重ねており、能楽を通して本県の文化振興に大きく寄与された功績は多大である。

## ■現在

能楽師

小林観諷会主宰

日本能楽会会員

## ■主な表彰歴等

昭和53年 重要無形文化財能楽保持者

平成10年 和歌山市文化賞